

社会貢献活動

地域への
貢献！

【教育復興支援学生ボランティア活動】

東日本大震災の被災地の教育復興支援を行うため、2013年度は学生ボランティアの派遣を3回行い、宮城県内の小、中学校の児童生徒に対する自学自習支援、部活動支援、教育環境整備などを行いました。



ボランティアに参加した学生らは、「宮城の人たちと交流したこの5日間の貴重な体験は、一生忘れることはないと思います。そして、このような貴重な体験をさせていただき、そこから得たことを、多くの人に伝えなければならないと感じています。」などボランティア参加を通じて教職への強い憧れや多くのことを学んだことと思います。

本学では引き続き東日本大震災の教育復興支援学生ボランティアの派遣を続けていく予定です。

【地域への貢献活動】

刈谷駅前を彩る「アクアモールイルミネーション」を今年も本学美術科の有志の学生たちが制作。11月23日午後5時から、同駅前商店街アクアモールで点灯式が行われました。本学と刈谷市駅前商店街の連携で実施され、今年で8回目。今年は「童話」をテーマに夏休みごろから企画し、10月から本格的に制作を開始。「プレーメンの音楽隊」「浦島太郎」「オズの魔法使い」「アラジンと魔法のランプ」の四つの童話のモチーフが彫刻作品になりました。



【子どもまつりを開催】

子どもまつりは、学生が主催してさまざまな体験型企画を準備し、地域の小学生らを招いて、楽しく触れ合うもので、学生の多くが教員を目指す本学ならではの伝統行事の一つで今回が44回目。学生も普段接する機会がない子どもたちとの会話を弾ませ、子どもの素早い反応を楽しんでいました。



トップメッセージ

国立大学法人 愛知教育大学学長
後藤 ひとみ



本学は一国立大学法人として特定事業者の指定を受け、今回で9冊目の「環境報告書」を発行してきた。「環境報告書」とは、事業者(企業、団体、学校等)が、自らの事業活動によって生じる環境負荷や、環境に対する考え方、取り組み等を社会に対して定期的に公表するものである。地域の人々に、自分たちの環境負荷低減の努力について知ってもらうとともに、学生や教職員に環境対策のための負担について理解と協力をお願いし、環境保全への意識を高めることを目指している。

ところで、次代を担う子どもたちが学んでいる環境教育はどのような状況にあるかを小学校及び中学校は2008年告示、高等学校は2009年告示の学習指導要領で見てみた。いずれも総則において「環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成」が掲げられている。具体的には、小学校の社会科において、節水・節電、自然環境や地域資源の保護・活用、自然災害の防止などの学習内容が示されており、中学校の各教科においては、資源・エネルギー、地球環境、放射線、地球温暖化などを持続可能な社会の形成という観点から探究することになっている。高等学校においては、世界の資源・エネルギー、資源の再利用、地球温暖化、放射線及び原子力の利用なども加わり、持続可能な社会を目指した行動などを考える内容になっている。中学校や高等学校における取り組みは、ESD (Education for Sustainable Development) と呼ばれる「持続可能な開発のための教育」としても注目されていることから、子どもたちの環境教育に貢献できる教員の養成は本学の責務と言える。

このような責務を果たす上で、2011年度から始まった文部科学省特別経費による「環境研究と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」プロジェクトが今年度で終了となるのは非常に残念である。4年間の研究成果が、持続可能な世界をつくる子どもたちの素養を高めること、その教育を担う教師のスキルアップにつながることを大いに期待している。



国立大学法人 愛知教育大学
Aichi University of Education
環境報告書 2014 ダイジェスト

国立大学法人 愛知教育大学 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1 http://www.aichi-edu.ac.jp
保健環境センター・財務部施設課 TEL 0566-26-2194 (保健環境センター) 0566-26-2152 (施設課)
E-mail:kankyo-h@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

「ユニバーサルデザインフォント」を使用しています
ユニバーサルデザインフォントとはUD(年齢・性別や障害に関係なく、あらゆる人が商品・サービス・住居・施設を快適に利用できるように配慮されたデザイン)の視点にもとづいてデザインされた書体です。



この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています

Environment Report

環境報告書
2014
ダイジェスト

国立大学法人
愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

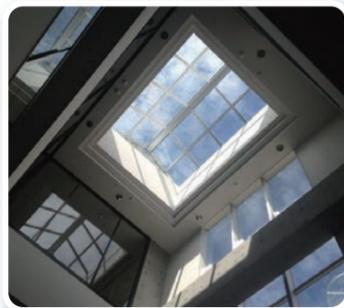
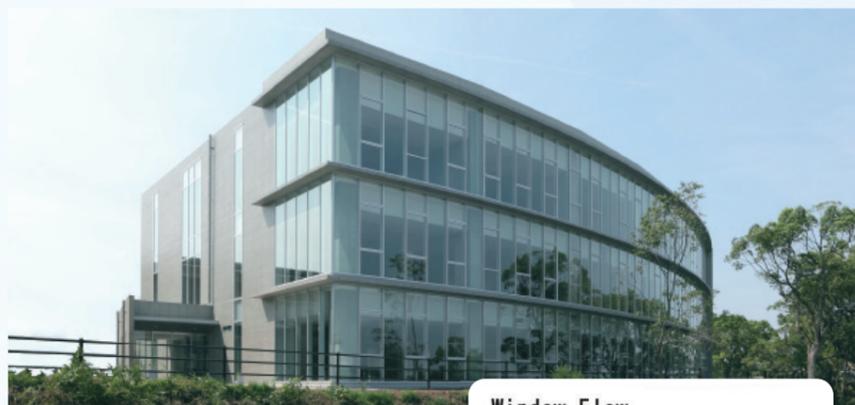
1. 全学を挙げての環境重視型大学を実現するための体制整備
2. 教育大学としての特長を生かした環境に関する教育研究の推進
3. 豊かな自然環境を保全活用した環境負荷の少ないキャンパスづくり

施設紹介

【教育未来館】

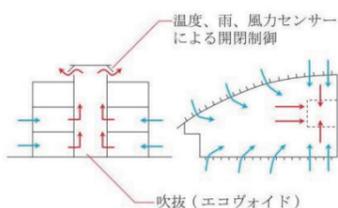
教育未来館は不足している大学院生用スペースの確保、大学改革推進のための機能・スペースの集約化、共同利用スペースの弾力的な運用を図ることを目的とした施設です。建物内にはアクティブラーニングスペースや、ICT機器等の情報設備を導入したことで、本学の教育研究環境が一層充実しました。

また、本建物は「自然な空気の流れを活かした自然換気システムの導入」や「全館LED照明の採用」、「屋上の太陽光パネル設置」等、様々な環境配慮への取組がなされ、自然環境との調和を図りました。



Window Flow

外部から吹抜上部へ抜ける自然な空気の流れを活かした自然換気システムの導入



環境コミュニケーション

環境活動に参加し快適な
キャンパス
ライフへ！

【環境ミーティングの開催】

環境問題及び環境への取組について、学生と教職員等とが広く意見交換を行う場が、環境ミーティングです。毎年開催し、大学の環境目標・計画や環境報告書及び学生主体の環境活動について意見交換を行います。2013年度は、「(敷地内)全面禁煙」「省エネルギー」等のテーマに沿って、意見交換を行いました。また、日頃から自主的な環境活動に取り組んでいる講義室の清掃活動(グリーン作戦)の報告や今後の課題等についても話し合いました。



環境への配慮

環境重視の
エコキャンパスへ！

【温室効果ガス排出削減目標】

第2期中期目標・中期計画の中で、施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置として、「環境報告書に温室効果ガスの削減目標を記載し、その達成に向けて自然エネルギーの活用等全学的な省エネルギー化を進める。」とし年度計画にて「温室効果ガスの排出量を対2009年度比4%削減する。」としています。

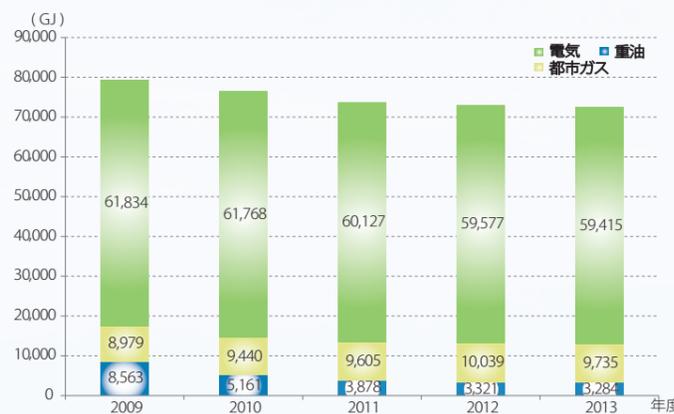
【二酸化炭素(CO₂)排出量】

| 環境報告書 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|---------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 温室効果ガス排出量(kg) | 5,000,119 | 4,555,066 | 4,673,678 | 4,403,860 | 3,850,044 | 3,654,541 | 3,493,294 | 3,709,628 | 3,667,574 |
| 対2009年度比 | 29.9% | 18.3% | 21.4% | 14.4% | - | -5.1% | -9.3% | -3.6% | -4.7% |

2013年度は、対2009年度比4.7%の減となり、目標を達成できました。

【総エネルギー投入量(GJ)】

本学の過去5カ年の総エネルギー投入量(GJ)を検証すると、2009年度に最も多くのエネルギーを消費し、その後は年々減少し、2013年度は、全構成員が今まで以上の省エネ意識を持ち活動を行った結果、過去最も少ない総エネルギー投入量に抑えることができたことは、大きな成果だと思います。



【水資源使用量状況】



| | 2009年度 | 2010年度 | 2011年度 | 2012年度 | 2013年度 |
|--------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 投入量(市水)(m ³) | 145,452 | 121,512 | 87,501 | 58,140 | 51,472 |
| 投入量(井水)(m ³) | - | - | 36,430 | 65,057 | 54,963 |
| 投入量計(m ³) | 145,452 | 121,512 | 123,931 | 123,197 | 106,435 |
| 対前年度差(m ³) | - | -23,940 | 2,419 | -734 | -16,762 |
| 対前年度比(%) | - | -16.5 | 2.0 | -0.6 | -13.6 |

本学の給水使用量は、便所等の節水対策工事、節水啓発活動及び漏水監視のためメーター設置を細分化させ迅速な対応をした結果、年々減少傾向にありました。2013年度は、プールへの給水量を見直した結果、2012年度と比較して大幅に減少しました。また、2011年8月から導入した「地下水浄化設備」により市水換算で6,994千円の削減効果がありました。

【花プロジェクト】

「花プロジェクト」は2012年から、「豊かな自然を活かした環境配慮型エコキャンパスの創造」に向けて始まった運動です。活動内容は学生・教職員が協同で花壇の作成から花の植栽・種まきを行うものです。2013年度も春・夏2度の活動を通して、計2,160本を植え、種から育てたひまわりは、元気いっぱいに来学者を出迎えました。



【キャンパスクリーンデイ】

学生、教職員ひとりひとりの学内美化に対する意識の高揚と、本学の教育・研究の場にふさわしいキャンパスづくりのため、また大学見学説明会に美しい環境を提供するための学内一斉清掃「キャンパスクリーンデイ」を実施しました。



【種プロジェクト】

愛知教育大学附属図書館では、エコキャンパス事業の一環として、「本の貸出・返却」という役割になぞらえて、植物の種の「貸出」を行い、栽培・収穫後の種を図書館に「返却」してもらって体験型企画を2013年にスタートさせました。

種プロジェクトでは、館内にも関連図書を集めた環境コーナーを設置するなど、積極的な環境に関する広報活動も行っていました。



分別カードを
持ち歩こう！

●教育研究活動からでる廃棄物●

種類ごとに分別して専用集積所に運ぶ



●古紙(新聞・OAペーパー等)



●実験系廃棄物、薬品類、薬品汚染物、実験廃液、原材料系廃棄物、粗大ごみ(ガラス・プラスチック器具・試験容器・金属くず等)